

SDGs実現のための ODAのトランスフォーメーション

SDGsの三つのキモ：2030年までに

- ◆ 貧困をなくし、格差を減らす。
- ◆ 持続可能な環境・経済・社会に移行する。
- ◆ これを「誰一人とりのこさないで」実施する。

SDGs時代の「ODA」の変革
「4つの軸」を立てて再編

1. 「誰一人とりのこさない」世界をつくるODA
2. 紛争・災害から人々の安全を守るODA
3. 貧困・格差をなくす、能力の高い政府機関を育てるODA
4. 持続可能な力強い経済をつくるODA

SDGs達成のためのODAに NGOの大胆な活用を

1. 「誰一人取り残さない世界」をつくるODA

- ◆ 保健・教育・水衛生・ジェンダー・栄養など:「人間の安全保障」
- ◆ 大胆にNGOに開放:「NGO連携無償」を再編し、200億円規模の「だれも取り残さない」官民基金設置で日本/途上国NGOが事業実施

2. 紛争・災害から人々の安全を守るODA

- ◆ ジャパン・プラットフォームの拡大
- ◆ 政府・JICA・日本NGO・国際NGO・国連機関の連携強化

3. 貧困をなくす、能力の高い政府機関を育てるODA

- ◆ 「税と社会保障・財政政策」についてJICAの専門的能力を強化
- ◆ 草の根無償などを組み替え、途上国NGOの政策提言活動を支援

4. 持続可能な力強い経済をつくるODA

- ◆ 「質の高いインフラ」整備にNGOを通じて地域住民の参画を支援
- ◆ サプライチェーン、ビジネスと人権の側面で環境・人権系NGOの活動を支援

NGOの能力向上のための支援を拡大
航空券連帯税等の導入で、NGO/ODA連携財源をブースト

ODA/NGO連携のガバナンスにも 大胆な変革を！

大臣のリーダーシップで、NGO/ODA連携の在り方を集中的に討議する有識者検討会を設置、2～3カ月で「ビジョン」を出す

1. NGO/ODA連携の司令塔にNGO出身者を採用（例：外務省参与＝NGO/ODA連携大使）
2. NGO/ODA連携を統括する、NGO・外務省・JICAのハイレベルな協議枠組みを設置
3. 緊急人道支援（JPF）に加え、NGO/ODA連携による（1）開発協力、（2）NGOの能力強化のための各資金メカニズムのガバナンスに、NGOが決定権を持って参加できるようにする。